

①言語指導とは

- 言語指導では、児童生徒のニーズや発達の段階に応じて、コミュニケーションやことばの力を豊かにすることを目指して取り組んでいます。
- 「話しことばでのやりとりを増やす」「他者にわかりやすく伝える」「自分が経験したことや気持ちを伝える」という3つの力を育むと同時に、『伝えたい気持ち』も育てていきます。
- 児童生徒のことばをはじめとする発達の段階に応じて、話しことばにかわるコミュニケーション手段の獲得とその活用をすすめる場合もあります。
- 実態に応じて、口腔機能向上の取組や構音指導などにも取り組みます。

②言語指導担当の役割

専任1名と2名の学部員が中心になり、児童生徒のことばの発達の実態や担任の先生方のニーズを把握して、抽出指導、入込指導、相談・連携を行います。

ひとりひとりの児童生徒のニーズに応じた指導の形態を工夫しています。

〈抽出指導〉

専任教員による、個別またはグループによる抽出指導を行います。話すことや聴くことに集中できる言語指導室での指導を行います。担任の先生が個別に指導を行う場合もあります。

〈入り込み指導〉

専任教員が学級担任と一緒にアセスメント、授業づくりを行います。

担任や保護者からの悩みなどの相談を受け、指導の方向性を一緒に検討します。また児童生徒をとりまく環境や課題等を定期的に交流・共通理解し指導を進めます。

〈担任との相談・連携〉

専任や部員が、担任からのことばの課題や指導方法の相談をもとに指導方針案などを提案します。映像や聴き取りをもとに一緒にアセスメントを行うこともあります。

年度末に抽出対象となる児童生徒の育ちを担任と共通理解し、次年度の指導につなげています。

〈保護者との連携〉（抽出指導対象児童生徒保護者中心に）

保護者懇談会（年1回程度）・授業参観（年1回、個別懇談含む）、連絡ノート（授業の様子報告）を通して保護者のニーズを受け止め、指導に活かしています。

〈研修・学習企画〉

専任教員は様々な研究会や関係諸機関から、障害や発達、指導法について学び、実践を深めています。

担任に対してもことばの発達やサインやコミュニケーションに関わる研修をもつなど、ニーズに応じた学習を企画しています。

③指導の実際

前言語期の情動共有
を通したコミュニ
ケーション

遊びを通しての全体的な発達の促
進、三項関係の充実、人と共感し、
要求する力の育成、ことばや認識
を育てる（言語理解）

からだを使った遊び、おもちゃや絵本な
どを通してやりとり 等

コミュニケーション
手段の獲得と活用

発語の促進、言語理解の向上、音
声器官の機能促進、伝達意欲の向
上、聴く力、サインやシンボル、
文字等の補助代替手段の獲得と活
用

吹く遊び、声出し、音まね、音あて、手
遊び、歌、絵本でのやりとり、口の体操、
マカトンサイン、かるた、パネルシア
ター、ごっこ遊び 等

話しことばによる、
より円滑なコミュニ
ケーション

音韻意識、構文、構音、より明確
な発音の獲得や話し方の指導、個
人内差に対する指導

音の聞き分け、発音練習、口の体操、単
語構成、書き取り、すごろくやしりとり
等のことば遊び、音読、構音指導 等

④指導の実際



⑤言語学習室



吹く力・息の調整



発音・口の動き



音韻・ことばのリズム



やりとり・イメージ